

社会問題・安全安心推進特別委員会県内調査報告書

平成30年10月19日（金）に、「交通安全対策について」及び「子どもの健全育成について」について調査を実施したところ、その概要は次のとおりでした。

神奈川県議会議長 桐 生 秀 昭 殿

社会問題・安全安心推進特別委員会 委員長 亀井 たかつぐ

社会問題・安全安心推進特別委員会県内調査報告書

平成30年10月19日（金）

1 調査の概要

- (1) 調査箇所 (株)京三製作所、横浜市(市の子育て支援施策の概要説明)及び南区地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」
- (2) 出席委員 亀井委員長、山本副委員長、
田村、渡辺(紀)、高橋(栄)、加藤(元)、小島、国吉、斉藤(た)、
はかりや、高橋(稔)、大村、とうまの各委員
- (3) 調査日 平成30年10月19日(金)

2 (株)京三製作所

(1) 調査目的

(株)京三製作所は鉄道信号機、道路交通信号機やその制御システムなどの開発、製造を行っており、信号システムの開発では全国的に主要なメーカーの一つである。

本県においても、信号の青色表示を音で知らせる音響式信号機の新設や、条例によって保険加入の義務化を図ることを柱とする自転車の安全で適正な利用の促進を図るための各種施策などを実施しているところである。

そこで、同社を調査することにより、交通安全対策に係る安全・安心の確保に関する委員会調査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア 交通信号機の設置状況

現在、全国には208,061基の信号機が設置されており、都市部に集中する傾向にある。神奈川県内には9,401基が設置されており、割合で表すと、全国の約1/20弱が設置されていることとなる。

イ 交通信号機の更新への課題

大部分が、高度成長期に設置された信号機であることから、今後更新すべき信号機も増加するものと思われる。現在考えられている耐用年数でおおむね20年と考えているが、仮にその20年で全国の更新を終えようとする、年に11,000基更新していく必要があるが、実際は年に7,000基程度の更新にとどまっており、現在設置されている信号機の更新よりも、30年使用に耐えられるようにしていくという観点も必要だと考えている。

ウ 最新の信号制御

これまで、信号制御は警察庁仕様書に準拠したものしか製造できなかったが、最近では各都道府県警察本部の管制センターに接続せずに、ある程度の自立したグループの間の信号を一括で制御できる制御装置(ARTEMISシステム)を開発しており、地方部の交通渋滞緩和等に貢献している。

(3) 主な質疑応答

質 疑 ART E M I S システムは、神奈川県内で導入されているか。

応 答 厚木、海老名エリアでは当社のシステムが入っている。

なお、同システムは当社の制御システムの名称であり、国内の信号機の仕様は警察庁仕様書に準拠しなければならない、システムの根幹は警察庁のプロファイル信号制御機能であり、この仕組み自体はART E M I S とほぼ同じものである。

質 疑 富山県警の採用事例では、ハイブリッド式とあるが、これはどういうものか。

応 答 ハイブリッド式は、交通管制センターと接続もでき、また接続しなくとも信号機だけでの制御も可能というものである。

質 疑 横浜市内では採用事例はないか。

応 答 みなとみらい21地区で、他社システムではあるが、類似システムが国のモデル事業により採用された事例はある。

信号機の制御の基本は、交通管制センターと接続し、中央で制御及び安全対策を施すことが多い。このシステムのように、例えば地方の複数の信号機を自立制御するといった場合に、採用されることが多いと考えていただければと思う。つまり、やろうと思えばどこでもこのシステムを入れることはできる。

質 疑 例えば、神奈川県内では、全ての信号機が中央の管制センターと接続されているのか。

応 答 接続されていない。高度成長期にはほとんどが中央に接続されていたが、接続にはNTTの専用回線を借りている。全国で年間140億円の支払が発生しているというデメリットがあり、その接続に見合う費用対効果が得られているとは必ずしも言えない。このデメリットについて、例えば、とある県では中央に接続していても、信号機の間隔変更は日に3回程度しか手を加えておらず、この程度の頻度であれば、わざわざ費用を払って中央に接続するコストパフォーマンスも薄いのではないかという議論がある。

質 疑 NTTの回線に接続しているとのことだが、そのセキュリティには問題ないのか。

応 答 専用回線なので、ハッカー等が割り込む余地がない。センターと信号機が一对一でつながっているというイメージである。万が一割り込まれても、センターと信号機それぞれのガードはかなり堅いので、不可能である。

質 疑 交通信号機に、防犯カメラ等を取り付けて交通以外の目的で人と車の

動きを感知するような研究や、その技術開発の方向性等はあるか。

応 答 交通以外の防犯等の意味でカメラを取り付けて活用されるという例はある。信号機にある車両センサー以外に画像センサーがついている場合もある。以前、県議会からそのような投げ掛けもあったと記憶しているが、難しいのは、技術的には可能であるが、交通安全施設に対する予算費目はあくまで交通安全対策であり、防犯目的となるとその予算の面をクリアしなければならないという課題があるかと思う。

質 疑 災害対策について、3.11の際に信号機が止まってしまったということがあったが、そういったときに信号機単体で少しの時間でも復旧するということはできないか。

応 答 3.11以降、重要な交差点についてはリチウムイオン式の予備バックアップ電源をつけるという動きはある。しかし導入は都道府県によってばらつきがあり、神奈川県はあまり導入例がない。スペックについては、当時、計画停電が3時間ごとに行われていたので、バックアップ電源を使って最低3時間は持つような仕様としてある。当社としてもこういった提案はしていきたいところだが、普及にあたっては、財源によるところも大きい。

上記以外の質疑については、現場視察中に各自行った。



(4) 調査結果

交通信号機は、道路交通の秩序を守る根幹であることは言うまでもなく、更に交通を円滑に流していくという役割もある。また、昨今頻発する自然災害への対応と機能の付加等も図られてきている。

(株)京三製作所における交通信号機の仕組みや設置概況、最近の機能等の傾向を調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

3 南区地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」

(1) 調査目的

地域子育て支援拠点は、就学前の子どもとその保護者が遊び、交流するスペースの提供、子育て相談、子育て情報の提供などを行う子育て支援の施設である。南区地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」は、横浜市南区の地域子育て支援拠点としての機能を有しており、スペースを年齢別に分け、様々な玩具、絵本を備えるほか、子育て相談の受付、情報提供等を行っている。

本県においても、平成27年3月にかながわ子どもみらいプランを策定し、その重点施策の一つとして、地域子育て拠点等、市町村が地域のニーズに合わせて実施する地域子ども・子育て支援事業が円滑に行われるよう、市町村に対して支援を行うこととしている。

そこで、南区地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」を調査することにより、本県内における子ども・子育て支援の取組状況や地域における子育て力の向上への施策に係る委員会調査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

※ 初めに、横浜市庁舎議会棟において、市の子育て支援施策の概要説明を聴取した後、南区地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」の現地を調査した。

ア 地域における子育て支援について

横浜市では、平成25年度に行った横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査において、子どもを遊ばせる場や機会の提供、親の不安や悩みの相談等が日常の子育てに必要なサポートとして重要であるという結果が出た。このことから、身近な地域で子育てをあたたく見守られている安心感を得ながら、子育てを通じて親も共に成長する手助けをするという考えの下、横浜市子ども・子育て支援事業計画において地域子育て支援拠点等の整備を推進してきたところである。

また、理由を問わずに子供を一時的に預かる乳幼児一時預かり事業や、地域の登録した会員同士が子どもを預け、預かる、横浜子育てサポートシステムを確立している。地区を担当するコーディネーターの調整により、預ける側と預かる側のマッチングを取り持っている。

イ 「はぐはぐの樹」について

「はぐはぐの樹」は南区地域での地域子育て支援拠点として機能しており、特に子ども図書館に力を入れている。図書は子どもの情操教育に寄与することはもちろんのこと、本の貸し出しと返却が次の来所の機会にもつながるといった効果も期待できる。

このほか、保育・教育コンシェルジュによる個別相談の実施や地域シニアボランティアによる「おもちゃ病院（玩具の修理相談）」を実施している。

(3) 主な質疑応答

質 疑 横浜子育てサポートシステムについて、預かってくれる人に対して登録の際には面接をしているとのことだが、面接でお断りするような人はいるか。また、預ける側と預かる側のマッチング率はどの程度のものか。

応 答 預ける側である提供会員に対しては、入会の説明の後、3日間の研修を受けてもらっている。そこでは、日々の対応から緊急時応急手当まで研修しているところだが、各コーディネーターが研修の際には付き添って提供会員の様子を見ている。中には、高齢で体力的に難しい方や、最近では男性が増えてきたが、預かりの内容によっては、長い時間子どもと二人きりになるという状況から、利用会員が気持的にいささか抵抗を覚えてしまうこともあるかもしれない、ということスタッフで考慮している。提供会員になることについてノーとは言わないが、コーディネート段階で、預ける側の利用会員にどの提供会員がふさわしいかを配慮し、調整している。

なお、現在のところ、コーディネーターがよく各会員を見ており、マッチング率はほぼ100%に近い。ただし、急な利用申込みの際にはマッチングできない事例もある。

質 疑 マッチング成立の件数はどれくらいか。

応 答 57,935件である。

質 疑 障害をお持ちのお子さんやいわゆる医療的ケア児については、乳幼児一時預かり事業や子育てサポートシステムではどのような方たちで対応しているか。

応 答 乳幼児一時預かり事業においては、障害等を持つ子どもの預かりについて実績がある。障害の症状の重い軽いもあるが、例えば発達障害の場合は預かり側の人数を手厚くすることで対応できている。一方、医療的ケアではこの事業では難しい。

子育てサポートシステムの中では、障害を持っているお子さんでも対応しており、実際に件数も増えている。障害の有無に線引きはなく、一件一件のマッチングの段階で丁寧に状態を聞き取り、また、提供会員にも説明した上で、それくらいの対応なら可能と引き受けてくれる方もいる。障害は様々であり、ある意味では、子ども一人一人対応が違うということは障害の有無にかかわらずということもあるので、提供会員の理解と、マッチングを丁寧にやることで対応できている。

質 疑 「はぐはぐの樹」での子ども図書館の注力は素晴らしい取組だと感じているが、子ども図書館を全市的に充実させていくことはあるか。

応 答 子育て支援拠点は市内18区の特徴を勘案してそれぞれ特色を出しているため、全市的に広げるといったことは今のところ考えていない。

上記以外の質疑については、現場視察中に各自行った。



(4) 調査結果

南区地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」では、横浜市南区地域において、子育てを地域全体で行う地域力を創出すべく、子育て支援に関する様々な支援が横断的に展開されており、「はぐはぐの樹」の特徴として、子ども図書館の充実を図るなど、独自の工夫も見られた。また、横浜市の各種子育て支援施策は、市内の親子向けのものだけでなく、地域資源や地域の人々の力を引き出し、まさに地域ぐるみで子育てを応援していくような内容となっていた。

当施設を調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

<参考>

- 1 随行者 結束主事（議会局議事課）、山本副主幹（くらし安全防災局総務室）、森川副主幹（福祉子どもみらい局総務室）、宮崎主幹（健康医療局総務室）

- 2 調査箇所側出席者
 - (1) (株)京三製作所
（株）京三製作所交通機器事業部副事業部長、同総務部総務課主任
 - (2) 横浜市、南区地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」
横浜市こども青少年局子育て支援部子育て支援課長、同担当係長、議会局政策調査課職員、南区子ども家庭支援課係長、同保健師、南区子育て支援拠点「はぐはぐの樹」施設長、徳永県福祉子どもみらい局子どもみらい部次世代育成課長